

2015 JUA/AUA Resident Program 参加報告

江崎 太 佑 (慶應義塾大)

このたび、JUA/AUA レジデントプログラムに選出いただき、2015年5月15日から19日までルイジアナ州ニューオーリンズで開催されたAUA総会に参加した。ニューオーリンズはアメリカ南部を代表する都市であり、ミシシッピ川河口に位置する。AUA総会は、日本の学会のように各大学が持ち回りで主催しているわけではなく、毎年AUA事務局が会場の選定や準備を行っている。会場には、大勢が参加しやすく、かつ参加したくなるような街が選ばれるようで、実際ニューオーリンズもアメリカ有数の観光都市であり、この条件を十分に満たす。ちなみに、ニューオーリンズは湿度の高さで有名であり、学会中もほぼ毎日雨が降っていた。

私は、AUA総会に参加したのは今回が初めてであったが、とにかく規模の大きさに圧倒された。企業の展示スペースなど、部屋の向こうの端が見えないほどだった。一般演題の発表会場や講演会場の数も無数で、そうした会場で朝は6時から、夕方は7時過ぎまでの長時間にわたり発表や講演・シンポジウムが行われるので、まさに膨大な情報量であった。

実際にAUAに行き感じた日本との違いをいくつか紹介したい。まず、andrologyが非常に盛んと感じたことである。シンポジウムや講演で、andrology関連のものも多く目についた。アメリカでandrologyが盛んな一因に、一般市民レベルでも筋肉増強目的でステロイド使用が行われるような社会的背景があり、その延長線上として、andrologyへの関心が医師・患者問わず日本よりも高い、ということがあるように感じた。もう一点、日米の違いとして、AUAでは薬物治療に関する企業のブースがほとんど見られなかった。これは、薬物治療に関しては、AUAではなくASCOがメインになるからと教わった。アメリカにおいては、泌尿器科領域の癌であっ



レセプションにて、代用膀胱の術式で高名な Hautmann 先生と

ても、薬物療法は腫瘍内科医に役割分担されていることの反映なのだろうか。

今回、学会会場では非常に多くを勉強させていただいたが、単純にAUA総会に参加したというだけではなく、交流プログラムの一員としてレセプション等のイベントにも出席させていただけたことは、かけがえのない経験となった。国内外の多くの先生との出会いに恵まれたのは、交流プログラムを通じて参加したからこそであり、このような機会をいただけたことを、心から感謝している。またもちろん、空き時間を利用して、ミシシッピ川のワニのツアーに参加したり、本場のジャズを聴いたり、地元の郷土料理（ナマズ・ザリガニ・ワニ！）を味わったり、ニューオーリンズという街も楽しんできた。素晴らしい一週間を送ることができたと思っている。